

MY TOWN

むかし大前・いま関大前

二〇回生 浅野 倉平

しかし、意外な事に、この時点では、大前駅は設置されておらず、大前駅が開設されたのは、関西大女子科学舎（昭和九年十二月十二日火事にて焼失）が竣工した直後の、翌、大正十一年四月十七日だった。尚、北大阪電気鉄道がこの路線を経営していたのは、わずか二年で、当時、新しく設立された新京阪鉄道株式会社、この路線は譲渡されている。

—それから二十年—

昭和十七年（一九四二）秋、私は阿倍野区阪南町から、現在の関西大学正門前に引っ越して来た。その転居に伴い、保良幼稚園（現グレース幼稚園）に転入園したのだが、当時の保良幼稚園の授業の始まりは、音楽のリズムに乗って、一人、一人、室内をスキップで一周することになっていた。しかし、私はこれが苦手で、自分の順番が来ても、いつもパスをしていた。このパスが高じて次第に登園するのが嫌になり、ついには不登園児と成り果て、いつしか、幼稚園を中退してしまおうと言うハプニングもあったが、翌年四月、千里第二小学校（当時の国民学校）に入学した。

—へまぐがいだ—

これは呪文ではない。祖父は大前駅の駅名板を、逆さ読みにして、当時、幼稚園児だった、私をよくからかったものだ。その様なことがあり、私も、大前駅を、いつしか、逆さ読みにする癖が付いてしまい、駅名が関大前と変わった今でも、この駅は「へまぐがいだ」と思っている。

—大前駅はなかった—

阪急千里線のルートについては、当誌で何度か紹介されているところであるが、この路線は北大阪電気鉄道によって、大正十年（一九二二）四月一日、先ず、十三ヶ豊津間で営業運転が開始され、少し遅れて、同年十月十日、豊津と千里山間が開通している。

その頃の大学前駅周辺の模様は、人家が十数戸ほどしかなく、その家並みを関西大学の方向に通り返け、短い坂を上がると、左手は垣根越しに畑が続く、その奥には、大きなアパートと、竹藪をバックにした瀟洒な洋館と地蔵堂を見ることができた。

又、右手は松の木交じりの竹藪が続く、その脇の小さな流れに沿って一〇〇メートルほど行くと、関西大学の赤レンガ門前の十数戸の家並みに至り、このあたりで、右手が急に開け、畑の奥の急斜面の上に、桜の木に囲まれた千里山遊園地の飛行塔を仰ぎ見ることが出来た。この様に、当時の大学前は、まだまだ、長閑なところであつたと記憶している。

— 関西大学が兵舎に —

この様な雰囲気のある大学前にも太平洋戦争の影響がおよび、昭和十九年（一九四四）九月一日、関西大学本館が中部第七四三七部隊「陸軍通信部隊」に兵舎として徴用を受け、併せて、地蔵堂の近くの畑も徴用され、軍の炊事舎と風呂場が建設された。これにより、大学前は、学徒出陣令・勤労令、等により不在となつた学生に代わり、兵士が隊列を組み、軍歌を高唱しながら

往来するようになった。

ちなみに、中部軍による関西大学の建物借上げ期間は、昭和十九年九月一日より昭和二十年八月三十一日までとなつていたが、その但書には、借上げ期間は大東亜戦争が終結するまで更新出来るとあり、又、賃料は、月額、坪・一円で一、〇〇四坪を借上げていた。

— 大学前駅がなくなった —

時を同じくして、九月一日、戦時物資輸送の増強策の一環とかで、大学前駅は閉鎖され、プラットホームは完全に取り壊された。

— テキシニューウー —

昭和二十年七月、三年生の一学期が終わり、夏休みに入つて直ぐの日の事だつたと思う。その日〔注一〕の午後、私は軍の炊事舎の近くで遊んでいた。

その時、円山町方面から、突然、大きな飛行機のエンジン音が聞こえて来たのと同時に、頭上に機銃音が響き渡つた。その瞬間、近くにいた兵隊から「坊や伏せろ！敵襲だ！」と怒鳴られ、私は言われるままに、

その場に伏せたのだから、銃撃後も、しばらくの間、兵隊達の「テキシニューウー・テキシニューウー」と連呼していた声が、未だに、私の耳の底に残っている。

この銃撃は、P51艦載機による機銃掃射で、千里山遊園地の飛行塔と関西大学の予科校舎のタイル壁が被弾していた。

尚、私が機銃掃射を間近で体験したのは、これが二度目で、最初は、これより数日前、下校時に学校を出た所で銃撃を受けている。その時の状況に付いては、会誌四号で、同級生の久保利也君が「千里山の思い出—四」で詳しく書かれているが、私も被弾を避けるために、道沿いの小川に飛び込み、難を避けた者の一人である。

— 終戦 —

昭和二十年（一九四五）八月十五日、この日は朝から雲ひとつない良い天気であつた。でも、いつもは兵士が行き来している関西大学周辺は不気味なほど静まり返つていた。その様な静寂の中を一機のB29爆撃機が、東から西へと、飛行雲を引きながら、ゆっくり、

ゆっくりと飛んでゆくのを、大学構内のプラタナス並木の木陰から、その爆音を聞きながら眺めていた自分の姿を、今でも鮮明に思い出すことが出来る。その数時間後、天皇陛下の終戦詔書の玉音放送がなされたが、その時の私には、正直に言つて、その詔書の意味が良く判らなかつた。

終戦の日の翌日、兵舎内外の治安の維持を図るためとかで、関西大学の赤レンガ門脇にはテントが張られ、着剣した銃を持った兵士が詰め、歩哨が立てられるなど、大学前には、数日にわたり戒厳体制が引かれた。

この様な緊迫した状況下で、通信部隊の撤収作業が始まり、大量の書類や物品が燃やされ、その煙が、終日、大学構内に立ち込めていた。その様な日が続き、夏休みも残り少なくなつたある日の午後、突然、大きな爆破音が大学前じゅうに響き渡つた。この爆破音は、軍が通信機器類を処分するために、関西大学のグラウンドに穴を掘り、ダイナマイトを仕掛けたものと聞かされたが、その爆破の衝撃はすぎましく、爆破音と同時に、我が家の天井が一瞬持ち上がった程だつた。

その後、連合国軍の兵士がジープに乗って武装解除に現れたが、それは、もう、十月に入ってからのことだつた様に思う。

—大学前駅が戻ってきた—

昭和二十一年（一九四六）六月二十五日、大学前駅の営業が一年七ヶ月ぶりに再開されたが、その位置は、以前の駅より五十メートル程、千里山遊園駅方向に寄っており、プラットホームの一部は、古い枕木を組み合わせて作られた粗末なものであったが、電車が止まる駅が戻ったと言うことは、率直に言って嬉しかった。

又、大学前駅の再開直前の四月七日には、昭和十八年十二月一日、戦意高揚のために千里山遊園駅が千里山厚生園駅へと改名されていたが、この日に再び、千里山遊園駅へと改称され、昭和二十年三月三十日以来閉園されていた遊園地が再開された。

—裏口入園—

千里山遊園地は、大学前の悪ガキ共の格好の遊び場

会である聖母奉献会への売却に伴う改称であった。

売却に至った詳しい経緯は良くわからないが、これを一番喜んだのは関大生で、可愛い「メツチェン」がやって来るとはしゃいでいた様であるが、それとは反対に、慌てたのが、将来、この地に総合大学の建設を計画していた関西大学である。同大学は、直ちに、聖母奉献会に対して、旧千里山遊園地の転売を懇願し、ようやくの事でこれを手に入れたようだが、これは、関西大学にとっては、相当に高い買い物になったのではと思われる。この結果、翌年四月一日、女子学院駅は花壇町〔注二〕に改められ、大学では、この地を関西大学外苑と称し、翌年四月、関西大学付属あけぼの幼稚園が、ここに開園した。

—大学前にも開発の波が—

昭和二十七年（一九五二）二月、永年、慣れ親しんできた関西大学の赤レンガの門が取り壊され、新しい正門が完成した。この頃から、昭和三十年代前半にかけて、大学前駅から関西大学正門に至る通りの景色に変化が見えはじめ、特に、右側の小川沿いの敷地は、徐々に切り拓かれ住宅が立ち並ぶようになった。又、

であった。特に、コンクリート造りの長い滑り台を、トタン板を尻に敷いて一気に滑り降りるのが爽快で、度々、遊園地に遊びに行つた。しかし、正面入口から入園した事はついぞなかった。遊園地の外周の大部分は、古い枕木と鉄条網で囲われていたが、ある所だけ、子供が通り抜けられる隙間があり、そこから園内に潜り込んでいたのだが、その場所の在り処は今でも秘密である。

—新制大学誕生—

昭和二十二年（一九四七）三月、教育基本法・学校教育法が公布され、六・三・三・四制が実施された。

又、その翌年には、学制改革が行われ、関西大学は新制大学に移行されて、大学前にも、ようやく多くの学生が戻ってきた。

—関西大学外苑—

昭和二十五年（一九五〇）六月一日、千里山遊園地が閉園され、同年八月一日、千里山遊園駅は女子学院前駅へと改められた。これは、当時の京阪神急行電鉄が、同年五月、千里山遊園地をカナダのカソリック教

それと同時に、永い間、商店としては、仲津煙草店・鈴木八百屋店・丸見屋食堂しかなかった道筋に、矢根理髪店の前身である川上理髪店・カメラの大学堂・松葉食堂・駅前には大学温泉などが開店し、又、当時としては、大型の下宿屋・関大荘が開業したのもこの時期である。

—銀幕の大スターがやってきた—

昭和三十年（一九五五）野村芳太郎監督・佐田啓二・岸恵子主演の松竹映画「亡命記」のロケが大学前駅と関西大学外苑の野外劇場（元千里山遊園）の二箇所で行われた。大学前駅でのロケは雨のシーンで、消防車が出動し、放水をして雨を降らせているのを野次馬として遠巻きにして眺めていたが、野外劇場のロケでは、エキストラとして観客席に座っていた。だが、封切られた映画を観たところ、私は、どこにも映っていない、幻の映画出演となった。

—関西大大学 vs 日本道路公団—

これは、名神高速道路の建設にあたり、日本道路公団が、関西大学のキャンパス中央部を横断する道路計画を立てたのに対して、関西大学が頑強に反対したも

ので、この抗争は、昭和三十三年から四年の永きに亘って争われたのだが、最終的には大学側が折れ、トンネル方式で学内通過を認めたもので、これが名神高速「千里山トンネル」である。

―大学前駅が、再び、なくなった―

昭和三十四年（一九五九）三月、私は、東京に就職が決まり上京したのだが、その五年後の昭和三十九年（一九六四）四月十日、大学前駅と花壇町駅とが統合され、新駅が、名神高速道路の高架下に「関大前」駅として開設された。

もし、聖母奉献会が千里山遊園地を関西大学に転売しなかったら、新駅は〇〇女子学院前となっていたかも・・・・・・・・・・・・・・・・

「いま関大前」は、次の機会に、紹介をさせていただきます。

注一、吹田市史によると、昭和二十年七月二十二日昼過ぎ、P51が大阪方面に大挙来襲し、吹

田地域については、操車場・機関区・千里山・豊津に銃撃と小型爆弾投下と記されているので、この日の機銃掃射は、その日に当たるのではと推察している。

注二、この駅にまつわるエピソードは、会誌六号で、奥田陽一さんが「駅名変更回数日本一の「花壇町」」の中で、面白く紹介をされています。

参考文献 ―千里山・佐井寺図書館で閲覧しました―

- 一、「京阪神急行電鉄五十年史」京阪神急行電鉄 一九五九年
- 二、「七十五年のあゆみ」記述編 阪急電鉄株式会社 一九八二年
- 三、「七十五年のあゆみ」写真編 阪急電鉄株式会社 一九八二年
- 四、「吹田市史」第三卷 吹田市役所 一九八九年
- 五、「関西大学百年史 通史編 上」関西大学 一九八六年
- 六、「関西大学百年史 通史編 下」関西大学 一九九二年
- 七、「関西大学百年史 資料編 関西大学 一九八六年